

牛久：学校周辺に見る自然

第42号 ひたち野西近隣公園

2011年10月2日発行

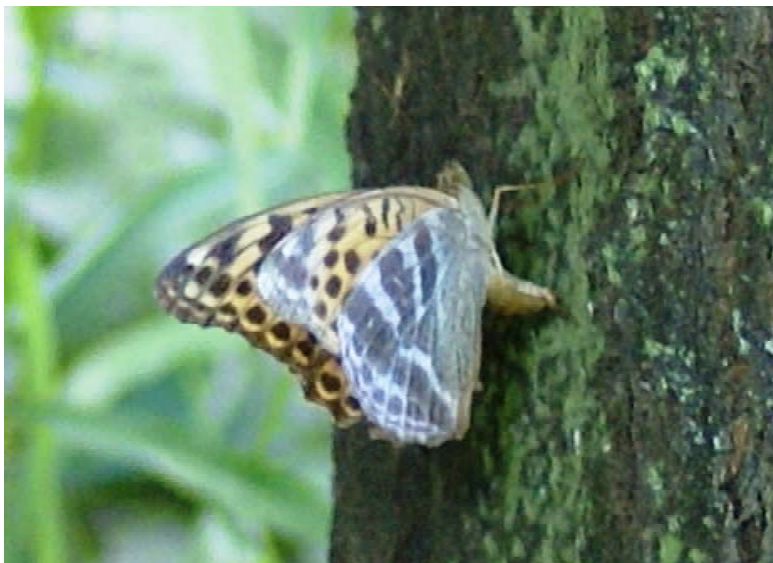
＜ 残暑厳しい水辺公園を歩く ～その2. チョウ＞

残暑の水辺公園。訪れるたびに、新たな生きものに会えるこの公園をとっても素敵に感じます。大切にしたい、多様性豊かな公園です。今回は、チョウの仲間。



まずは、タテハチョウ科の仲間3種。一番目はコムラサキ。同名の樹木もありますが、こちらは国のチョウ、オオムラサキに近い仲間です。オスの翅の表には、青紫に輝くもようがあつて、とても美しいです。成虫は樹液や動物の糞を好みますが、幼虫はヤナギの仲間の葉を食べます。自然の状態のよい雑木林に見られるようで、関東の他県では少なくなっているようです。

はねを閉じたり開いたりして、青紫に美しく輝くもようを見せる、コムラサキのおす。国のチョウ、オオムラサキに近い仲間。



次は、ミドリヒョウモン。写真のような姿勢にもしやと思いましたが、図鑑で調べると、やはり樹皮に産卵するとのことでした。でも、幼虫は樹皮を食べるわけではなく、ふ化すると下に降りて、スミレの仲間の葉を食べるそうです。そういえば、このあたりには、春にたくさんのスミレ類が咲いていました（第4号を参考に）。

樹皮に産卵するミドリヒョウモン。幼虫はスミレ類の葉を食べる。



そして、これまでも何度か登場したツマグロヒョウモン。今回は、初めて交尾シーンをとることができました。右のカラフルな方がメス。左は他のヒョウモンチョウの仲間と区別しにくいひょう柄もよりのオスです。動物はチョウにかぎらず、オスが美しいもようをしたものが多いのですが、このチョウはメスがめだちます。

ツマグロヒョウモンの交尾。右がメス。



タテハチョウ科に続いて、シロチョウ科のチョウ2種です。

まずは、モンキチョウ。写真はメスで、名前にある黄色が目立たず、モンシロチョウに似ています。春はじめから秋の終わりまで、いろいろな花でみつを吸いますが、幼虫がシロツメクサやムラサキツメクサの葉を食べるからか、特にこれらのみつを吸っているのをよく見かけます。

**ムラサキツメクサのみつを吸うモンキチョウ。
幼虫はシロツメクサの仲間の葉を食べる。**



続いて、キタキチョウ。これもいろいろな花でみつを吸いますが、やはり幼虫が葉を食べる、ハギの仲間を訪れていることが多いようです。写真にはとれませんでした^{さんらん}が、産卵中のものもいました。ヤマハギの濃いピンクとキタキチョウの濃い黄色のコントラストが、たいへん美しく感じられました。

ヤマハギの花みつを吸うキタキチョウ。



シジミチョウの仲間も、いろいろ飛んでいました。以前、ご紹介した、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミが多く見られましたが、今回は翅のうらがまっ白でガにまちがえられることもある、ウラギンシジミをご紹介します。チョウの仲間では少数派^{しょうすうは}ですが、キタキチョウなどと同じく、成虫で冬を越^こします。くさった果実や動物の糞^{ふん}が大好きです。**クヌギの枝ではねを休めるウラギンシジミ。**



最後にこれもガにまちがえられやすいセセリチョウの仲間から、イチモンジセセリの求愛^{きゅうあい}シーン。後ろのオスがさかんにプロポーズしていましたが、大きなハチが飛んできて、はなれてしまいました。

それにしても、一年通して、チョウをはじめ、いろいろな昆虫^{こんちゅう}が現^{あらわれ}れてくれます。皆さんと歩く日が待ち遠しいです。

【理科支援員 宮内】

イチモンジセセリの求愛。後ろがオス。